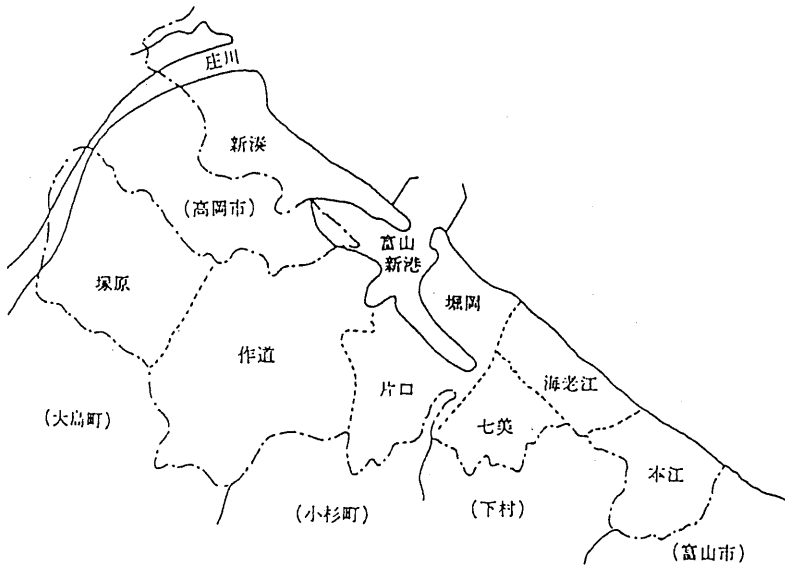


第 1 集

作道村々の 小字しらべ

(平成5年度調査)



—平成6年3月—

新湊市立作道公民館
ふるさと講座事務局

— 目 次 —

1, 調査のねらい	_____	1
2, 調査経過と調査対象	_____	1~2
3, 村々大字の沿革一覧表	_____	(12)
4, 小字とその由来考察	_____	2~22
1) 大字, 作道	((1) 沿革と領高 (2) 小字と由来)	
2) 大字, 久々湊		
3) 大字, 野村		
4) 大字, 津幡江		
5) 大字, 殿村		
6) 大字, 今井		
7) 大字, 沖		
8) 大字, 鏡宮		
9) 大字, 布目		
10) 大字, 高木		
11) しんせいまち (新生町)		
12) 大字, 神楽町 (かぐらまち)		
※ 新港工業地帯形成と		
農地の変化 — (10~11)		
1) 農地転用		
2) 農業改善事業	にみる経営面積 農家戸数・事業内容	
5, 各集落の小字地図	_____	23~32
6, 参考資料		
1) 村御印	_____	33
2) 絵図	_____	35

4) 調査の手法

石黒善雄氏（昭和12年3月，越中郷土研究，射水郡作道村の小字）の資料を元に，各集落ごとに名称，俗称を調べ，更に由来の聞き取りをする。

荒木菊男氏（市文化財審議委員）津田昭彦（公民館長，ふるさと講座事務局）でまとめ，推敲し再度集落で確かめ収録した。

5) 小字図記入責任者 自治会長および学級員

（作道）	津田 昭彦	（久々湊）	川端 周一
（野村）	堀江 秀二	（津幡江）	池松 寿翔
（殿村）	若林 太三	（今井）	高田 誠一
（沖）	笹本 正義	（高木）	洪田 治作
（鏡宮）	村道 三郎	（布目）	奈田 忠光

3. 村々大字の沿革一覽表（別紙）

4. 小字とその由来の考察

1) 大字，作道

（1）作道の沿革と領高（新湊市史，越中志微より抜粋）

村名の由来は，古くから道にかけて，延喜式（巻10）の神名帳にある射水十三座のひとり，道神社に起因するとの説がおこなわれている。（道神社由緒記）

また越中志微巻四によれば，「いにしえ奈呉の湖中なりしところなれば，作道と名付けたるべし」とあり，万葉集巻十二には，「新治今作道，新開して新たに道を付けたる村家なりし故に作道とは言うなるべし」と記されている。

古村の作道の領高は，「領石古絵図」（前田家文庫）によれば作道村千百七十一石とある。江戸時代当初の明暦2年（1656）によれば，一村千五百余石，免相は4割6歩であった。文政元年（1818）の村鑑帳（斎藤家文書）では，領高千參百五十石，免相4ッ3歩となっている。

はじめて農耕の集落があらわれるのは、弥生期も後半のころと考えられ、弥生式土器が西津幡江、殿村から出土しており注目された。ここでの農業集落の展開は、史料的には平安朝にさかのぼる（和名抄七、約1150年）当時の津幡江の古村は、殿村、野村、東、西津幡江をも含めた大村であったであろう。近世初期の分村までこれらの村々は、それぞれ「津幡江」の冠名をもち、分村は寛永（1624）から承応（1624）までとすることができる。

中世期にみえる津幡江は、かなり大きな集落であったことは神宮文庫の古文書（伊勢市）から想定できる。市内最古の有力な神明宮（西津幡江、小字、宮垣内のあたり）が存在していたことで推定できる。

東津幡江は、元村であった西津幡江とともに出村したことによる双子集落を形成した。かつての大坪川が大きく蛇曲して放生津潟に注ぐ水流がここに滞流した東辺部で、亀田川の流路を西方に押しやった形で、これを村川に取り入れた右岸地区（東辺）に出作し、移住集落に進展していったところであった。承応4年（1655）には、旧下条川の改修工事も完了して、東辺の片口村の開拓も進み、このころから出作の東津幡江への移住も進み、のちには東津幡江が親村に、西が枝村と言われるようになった。

領高は「領石古絵図」によれば、九百二十六石余とある。明暦2年の村御印では、草高千百四十三石、免相4割でまさに「東の千石領」といわれる大村であった。文化14年（1817）の村鑑帳では、九百三十五石、定免4ツ、神社三社（神明、八幡二社）とある。

（2）津幡江の小字と由来（別紙）

5. 大字、殿村（殿村津幡江）

（1）殿村の沿革と領高

十村役の宅助の来住に由来すると言われている。宅助が下村からこの地に移住したのは、承応3年（1655）のことで（古屋敷1千余歩）ここで扶持高1町歩が許され、別に持高260石（十村

ら収穫することは至難なわざであった。(折橋文書)

「領石古絵図」によれば、領高千三百六十石余で今井千石領の大村であった。明暦2年の村御印では、草高千二百七十四石、免相4割とある。

(2) 今井の小字と由来 (別紙)

7. 大字, 沖

(1) 沖の沿革と領高

今井村の元村で中世の農業集落。(郷村仮名附帳)いまの亀田川(大坪川合流)の灌漑原に開けた古村でのち、「沖今井」と対称されたところであった。

御鷹野道と言われた中世の草嶋往来がここを通り、この村の創成は交通史上注目される。万治元年(1658)の小杉新町の開町によって旧作道往来(小杉往来)ができて、今井が幹線に添うようになったが、その反面では、北陸街道(往環道路)が本道となって沖を見捨て裏道となった。

古村の領高は四百三十五石(領石古絵図)、明暦2年の村御印では、一村四百4石、のち寛文8年(1668)検地で引高され寛文10年の村御印では、村高三百四十八石、免相4割で「今井千石 沖350石定」といわれた。

(2) 沖の小字と由来 (別紙)

3. 大字, 鏡宮

(1) 鏡宮の沿革と領高

もとは草野とよばれた原野であった。(草野山無量寺由緒書)村名の起源は未詳でいろいろ考証もせられる。「越中志徴」では、(和訓抄)をひいて、伊勢神の地祇にあって、地縁からこの鎮守社の鏡宮に由来をもとめている。中世のころ、この地方で活動した伊勢御師(先達)は、ここでおおくの神明宮を勧請していた。(神宮文庫)やがてこの鏡宮天神が村名に結びついた

10, 大字, 高木

(1) 高木村の沿革と領高

西の布目村とは双子村である。一村領高は明暦2年の村御印によれば、草高五百八十九石。免相は高率の5割3歩であった。なお寛文10年(1670)1村御印も同じである。

当時高木村は、今井・沖・戸破にかけて禁猟区で、藩主の放鷹の地に指定されていた。元来この地方一帯は、もとの放生津潟の名残りをとどめた低湿地帯であり、不湖、無湖といった沼沢や不湖川などがあったので、涉禽・游禽の水鳥の飛来・棲息地であった。

歴代藩主は、参勤の途次巡察をかねて、鷹狩りをした。高木村での放鷹は、寛政10年(1670 4月・御道中日記)天明6年(1786 5月・諸事留帳)の記録からうかがえる。

諸事留帳 記録抜粋 (11代藩主 治脩 下村より入って放鷹
天明6年5月14日)

中将様 越中筋 御鷹野 御成

……ばんも高木宮ニテ捕被遊候。

また天明(1781)のころより、高木村肝煎の石黒藤右衛門(信由)は、和算・測量の学問にすぐれ藩用をつとめ、以降4代を通して大きな功績を残した。天保4年(1833)の戸数は38軒である。

(2) 高木村の小字と由来

※ 不湖について

旅家 恒雄

富山市に下富居(しもふご)と言う地名があるが、ここは、昭和15年から現在まで富山市の大字となっているが、はじめは豊田村であった。その位置は、常願寺川扇状地の西北端に近く、神通川下流東方にある富居は、「不湖」、「副湖」からでたもので、大和言葉の湖辺に近い湿地の意で、扇状地湧水帯であったところから名付けられた地名ではないかとされている。(越中志徴 豊田郷土史)。

以上は、「角川日本地名大辞典 第16巻 富山県424P.」に掲記されている。

一方、「朴木」には「フケ」と言う地名がある。(上記大辞典)。「ふけ」は、湿地、沼地のことである。(古語大辞典1433P. 小学館発行)。そして「深田」と書いて「ふけだ」と発音する。(同上P) 参考までに旧 老田村、これは「ろう」という漢字にとらわれると惑

※新港工業地帯形成と 農地の変化

1) 農地転用

工業用地の造成に伴う農地買収は、新湊市では全農用地の三分の一に相当する600ヘクタール、551戸の農家が離農し、約400戸農家が耕地面積の縮小を余儀なくされた。

昭和37年12月18日、七美地区の現地説明会を皮切りに本格的に買収交渉が開始され、昭和40年より46年までの間に完了した。

被買収農家の割合は、堀岡地区で100%、七美地区で72%、片口地区で58%、農家率の高い作道地区では40%である。

今、作道地区の内訳をみると、昭和40年まで581ヘクタールあった農地が昭和45年に468(減少面積113ヘクタール)、昭和50年には、455(減少面積13ヘクタール)計126ヘクタール減となった。特に大口減少は、久々湊集落の61ヘクタールを筆頭に野村集落の22ヘクタール、作道集落の17ヘクタールと続き、その1の集落で26ヘクタールの転用となり、村落の領域が大きく様が変わりした。

さらにその後、宅地造成、企業団地、国道沿線の開発など目まぐるしい進展によって農地が転用されつつある。

3, 村々大字の沿革一覽表 (新湊市史より)

大字	由来	資料	領高	免相	その他
1, 作道	道神社の道 古代	神社由緒 延喜式内 神明帳 926年 平安	1171石 領石古絵図 1500石 明歴2 1350石 寛文10	4.6割 4.3	西の千石領 87戸
2, 久々湊	湖岸の村 古代 港	日本書記 古事記 北陸万葉集	485石 領石古絵図 1098石 明歴2 1144石 文化14	4 4.2	71戸
3, 津幡江	津 弥生期 江 水 後半	神宮文庫 和名抄 平安期 弥生土器	西津幡江 元村 東津幡江 1655年 1142石 明歴2 935石 文化14	4	市内最古の神明社 東の千石領 56戸
4, 野村	野開き 1624~	津幡江より	980石 領石古絵図 1118石 寛文10	4.2	津幡江千石領 77戸
5, 殿村	宅助来住 1624~	1655年	1042石 明歴2 938石 文化14	4 4.2	宅助屋敷で5戸残る1756 幕末で 53戸 年
6, 今井	沖今井 中世農工集落		1360石 領石古絵図 1274石 明歴2	4	今井千石 早稲蔵土 才兵衛 76戸
7, 沖	今井の元村	中世のお鷹野道	430石 領石古絵図 405石 明歴2 348石 寛文10	4	24戸 天保4年
8, 鏡宮	鏡宮天神より 中世農村の土俗信仰	和調抄 江戸期 神宮文庫	1067石 領石古絵図 630石 明歴2 630石 寛文10	4.5	全国に多し 45戸
布目	布目高木 1652年 分村	承応元年	267石 領石古絵図 267石 寛政3	5.2	高持ち5戸分村 16戸 天保4
0, 高木	布目の双子村		589石 明歴2 589石 寛文10	5.3	江戸期放牧地 38戸

逆子	ギャクシ	他に 伊ワリあり	小字外の田
手の浦	テウラ	テノウラ	川の浦
内の小田	ナカノコダ		小さい田
砂山	スナヤマ		砂で盛った田
上野田	カミノダ	他に 野田	肥沃田
下野田	シモノダ		〃
島巻	シママキ		地形から
領石	リュウセキ	リョウゴメ	
圃の内		カコイノウチ	御子塚の圃内
苗代	ナワシロ	他に 村中苗代 新苗代	育苗田 よい田
南の区, 北の区 (不明)			新区割り

2. 久々湊 クナト、クグミナト 小字 52

瓢畑	ユウゴウバタケ	魁 1畝	地形から
古屋	フルヤ	1畝	古屋敷あとか
東芦原	ヒガシヨシバラ	9.9斗	明治初期新開地
八反	ハッタン	1畝	大きい田か
中島	ナカジマ	1畝	土盛りした田
六兵衛田	ロクベエダ	9.9斗	だんな六兵衛の開田
大割	ヲワリ	9.7斗	大きく割った田
八之庄	ハツノショウ	9.7斗	
遠場	エンバ	9.9斗	
下里	クダリ	サガリ 1畝4斗	
長割	ナガワリ	1畝8斗	地形から 長く割る
干場口	ホシバグチ	1畝4斗	はさ場口の意か
五右衛門	ゴヨウモン	1畝8斗	開田者名
苗古城	ナイコジョウ	1畝1斗	砦, 城あとか
北浦	キタウラ	1畝9斗	
雁田	ガンダ	1畝1斗	鳥 雁の飛来田
北塚田	キタツカタ	1畝9斗	塚地あとか
善左衛門	ゼンザエモン	1畝4斗	開田者名
六百宮	モッピヤクメ	1畝1斗	社地 杉の大木あり
入野艾	イリノガリ	1畝1斗	地形

3. 野村 ノンダ、ノムラ 小字 24

三千保 サンゼンボ
 西替歩 ニシカエダ
 狭間 キョウマ
 代地 ダイチ
 六斗成 ロクトウナリ
 源左衛門 インザイモン
 彼岸田 ヒガンダ
 道山
 若宮 ワカミヤ
 二十蒨 ニジュウガリ
 姫ノ木 ヒメノギ
 摘作
 管原
 桿田 ヒエダ
 番場 ババ
 苗代
 土居付 ドエヅキ
 永割 ナガワリ
 塔の木 トヤノキ
 中ノ坪 ナカツボ
 丑免
 天保 テンボウ
 西手
 東手

ニシカイボ
 ハザマ
 ロクトナリ
 ゲンザイモン
 ミチヤマ
 ヒメノキ
 ツヅクリ
 スキハラ
 バンバ
 ナワシロ
 ドイツキ
 トウノキ
 ナカノツボ
 ウスメン
 テンボ
 ニシテ
 ヒガシテ

国衛領か やせ地
 田地割りから
 小さい田
 交換地か
 収穫高から
 開田者か
 やせ地 お日様を拝んだ堂あと地
 社領 やせ地
 免租のため
 肥沃田
 〃
 〃 スゲ原のなまりか
 〃
 番小屋があった田か
 育苗田 肥沃田
 長く割った田
 中質田
 肥沃田 国衛領か天保開拓か
 村の西
 村の東

4. 殿村 トノンダ 小字 8 28

海老作 エビスク
 十五俵目 ジュウゴヒョウメ
 風呂腰 フロゴシ
 角道 カドミチ
 吉乃木
 前田 マエダ

エーベーツクリ 人名か
 収穫高からか
 地形 道
 前の田か

宮田	ミヤタ		社領
川々	カワガワ		新開地
大濱	オオハマ		
永割	ナガワリ		地形
細田		2級地	〃
村中	ムラナカ	1級地	人の集まる場所
下馬場	シモババ	1級地	馬場あと 狩り使役
門杉	カドスギ	2級地	場所から
南浦	ミナミウラ		〃
上馬場	カミババ		馬場あと
榎木	ヨノキ		ヨノキの大木との関係か
島木	シマキ		丘の場所
流田	ナガレダ		
池頭	イケノアタマ		地形か
八幡田	ヤハタダ	2級地	社領 八幡宮
黒稲田	クロイナダ	1級地	
馬黒	ウマクロ	2級地	
江又木	エマタギ	1級地	
鎧免	ヨロイメン		
沖田	オキダ		村の田
宮垣内	ミヤガキナイ		社領 (市内最古神明社)
西村中	ニシムラナカ	2級地	村の西
棒越	ボオゴシ		川に棒を渡して越す
紐分	クミワケ	2級地	
銚の木	ホコノギ		市内最古の神明宮 応和2年 の銚に関係か
竹の越	タケゴシ		川に竹を渡して越す

6. 高木 タカキ 小字 27

市牧田	イチマキダ	イチマイダ	肥沃田 大きい田
花懸	ハナカケ		
南浦	ミナミウラ		肥沃田 場所をさす
與五郎	ヨゴロウ		開田者名
大池	オオイケ		場所をさす

五俵目	ゴヒョウメ		収穫高から
中田	ナカダ		肥沃田
猫塚		ネコヅカ	肥沃田
苗代		ナワシロ	育苗田 肥沃田
天保		テンポ	国衛領 "
杉下		スギシタ	"

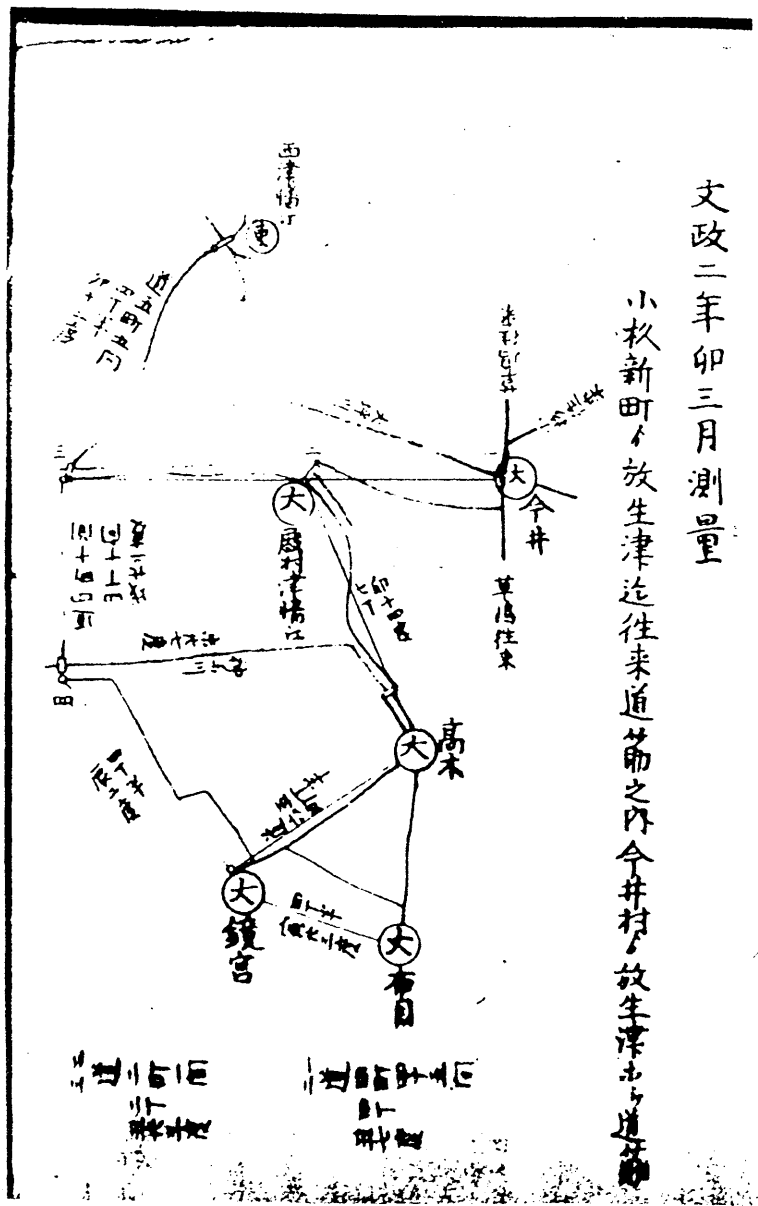
8, 布目 ノノメ 小字 ヌノメ 20

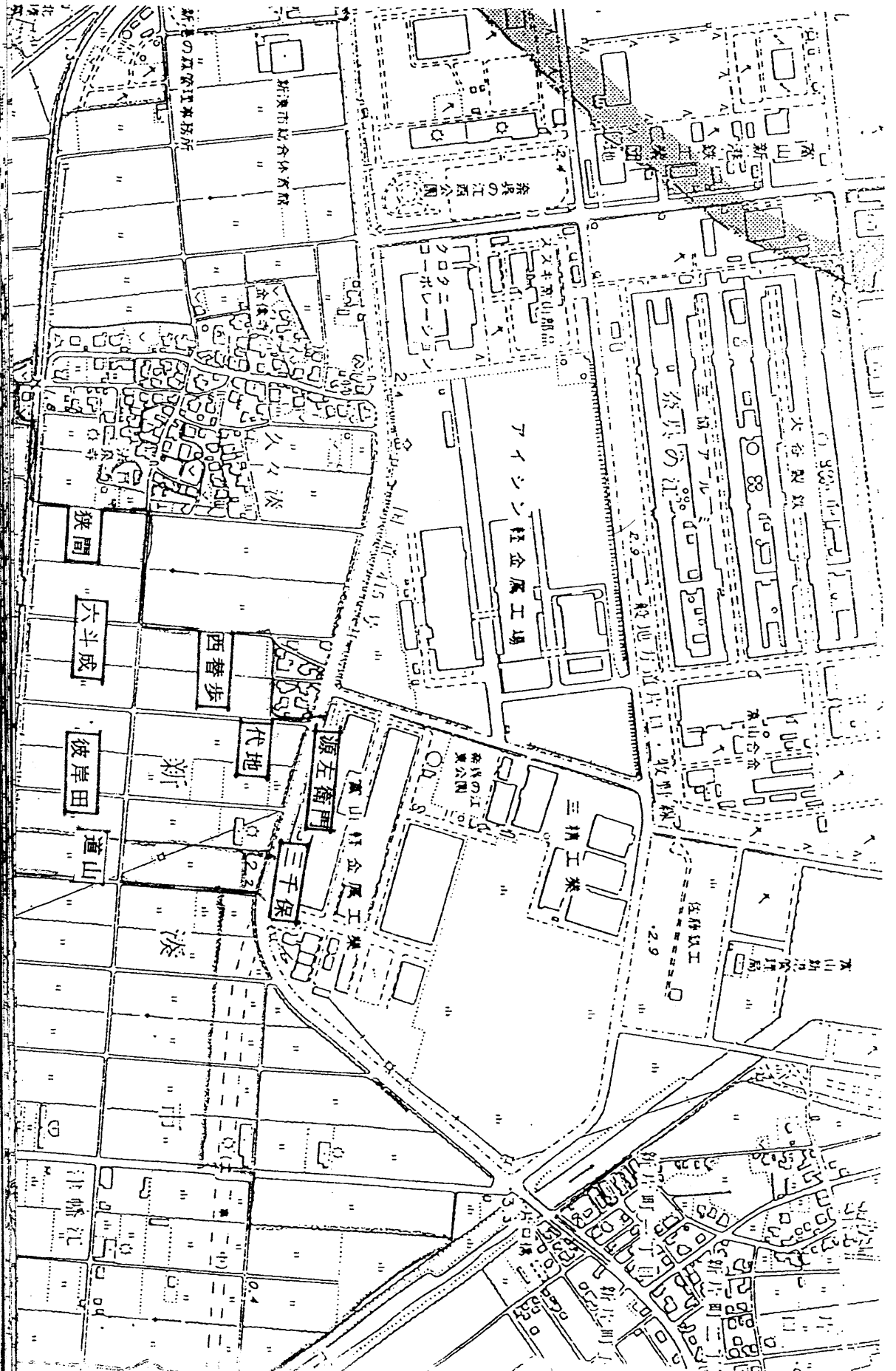
引地	ヒキジ		地主の地味のよい田
三百蒞	サンビヤクガリ		免租高 中質田
入の 泓	イリノフケ		下質田 不湖あと
五間瀬町	ゴマゼマチ		
豆田	マメダ		
大豆田	オオマメダ		中質田 大きい田
二十蒞	ニジュガリ		収穫高から
甚九郎	ジンクロウ		開田者名 上質田
一番割	イチバンガリ		一番の肥沃田 "
二番割	ニバンガリ		中質田
大墓	オオハカ		墓地あと 下質田
笠持	カサモチ		地蔵地か "
巳の内	ワノウチ		上質田
春の木	ハルノキ		中質田
小百蒞	ゴヒヤクガリ		下質田 500期か
神塚五反田		ゴタンダ	入り会い地
弘		フケ	"
江洲		エブチ	"
相天保		テンポ	国衛
高天保		テンポ	入り会い地

9, 今井 イマイ 小字 26

諏訪	スワ	スボウ	諏訪神社 社領
笈田	ソウケダ		地形から
深松	フカマツ		

下段 今井領	シタダン	地形から
-----------	------	------





新東市総合体育館

奈保の江西公園

アインシオン軽金属工場

大谷製鉄
三精工業
奈保の江西公園

奈保の江西公園
金山命命

源左衛門

三精工業

三千保

代地

西善歩

新

道山

彼岸田

六斗成

狭間

津幡江

三精工業

金山命命

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市

新東市



管原

摘作

姫ノ木

三十期

若宮

東手

番場

榎田

土居付

永割

野村

苗代

西手

塔の木

天保

丑免

中ノ坪

江幡津

十三通

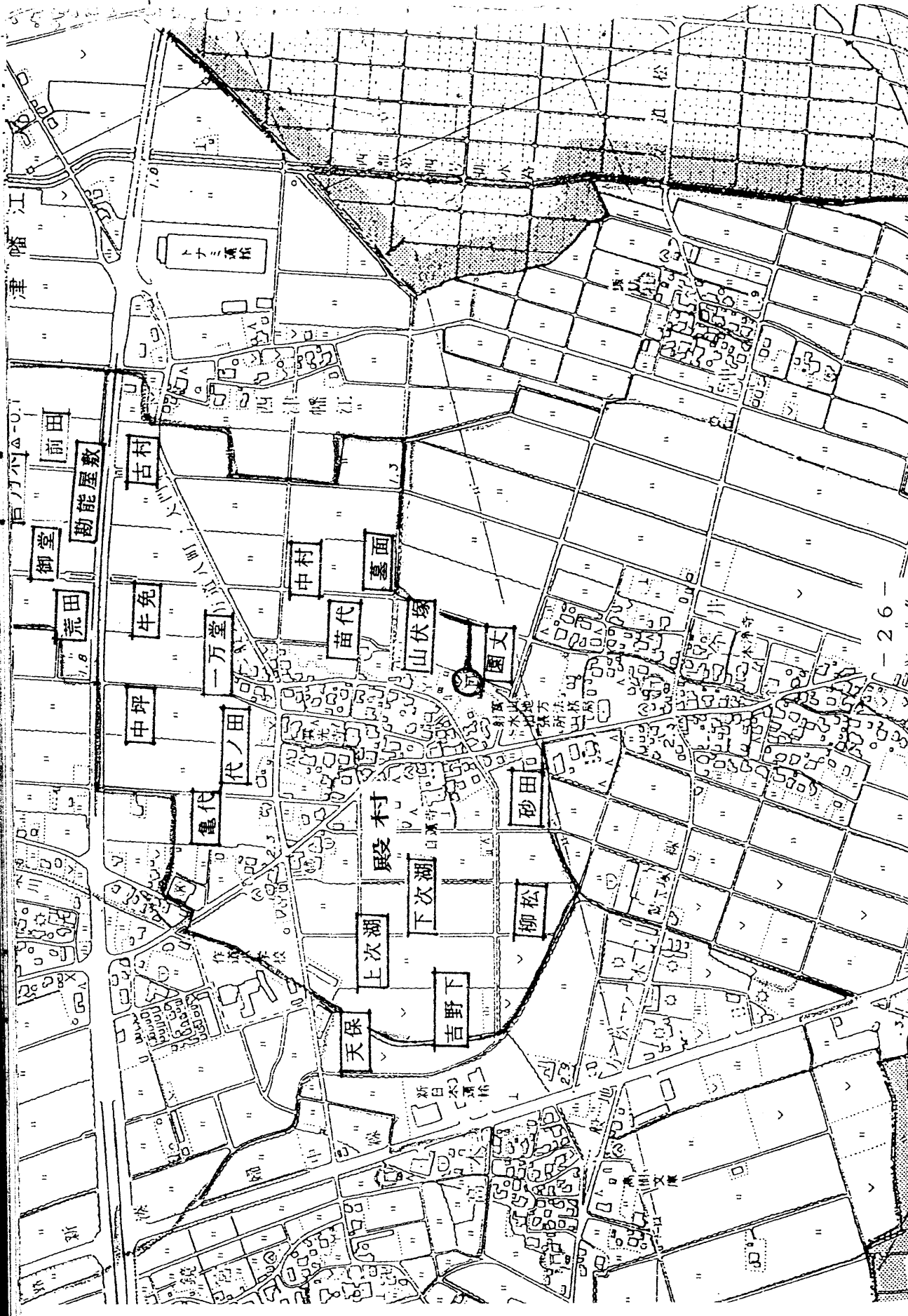
西津幡江

新日本

- 25 -

西部第一号排水路

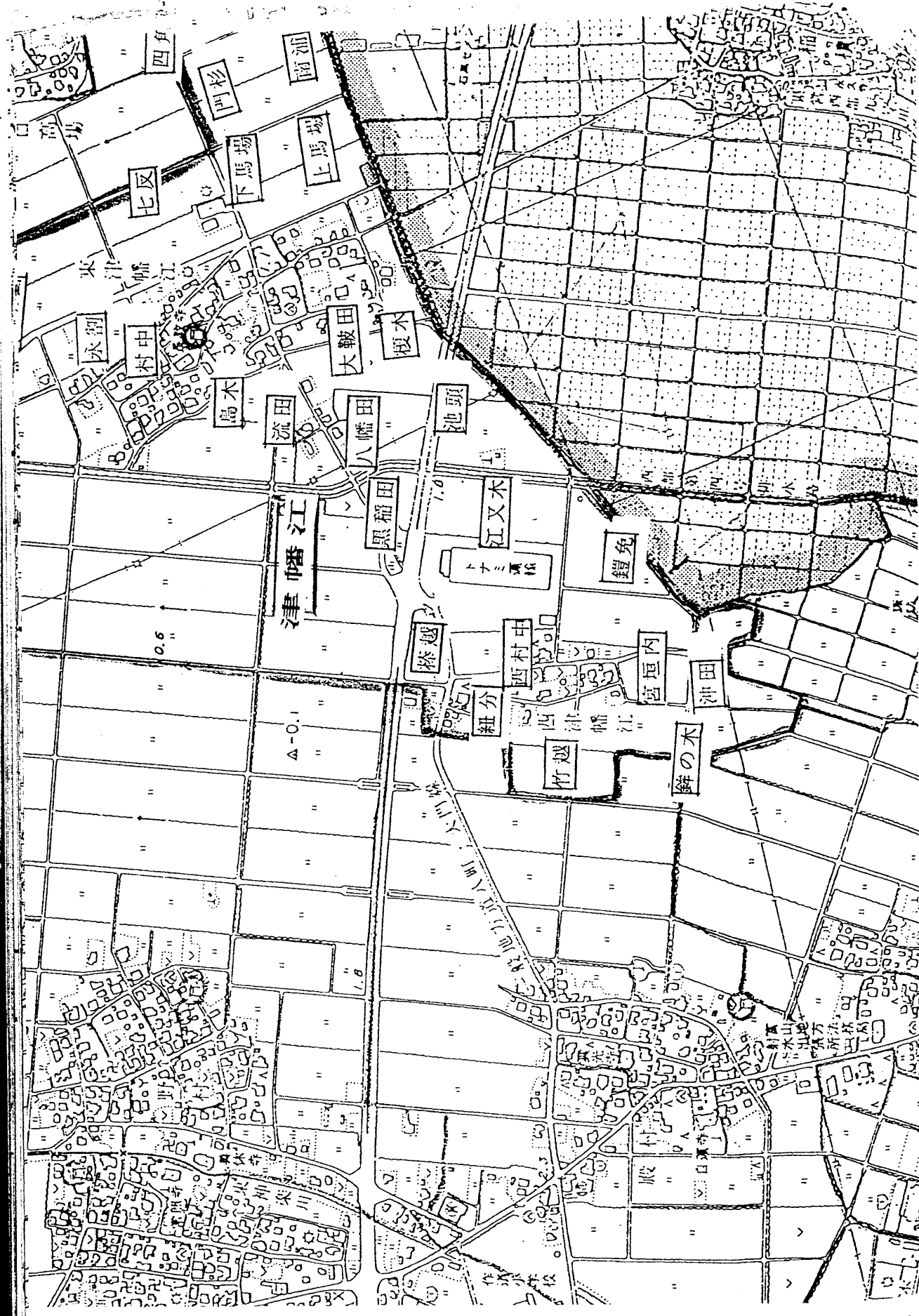
三井物産株式会社



津幡江地区平面図



片口萬場



四角

門杉

雨浦

高場

七反

下馬場

上馬場

津幡江

永割

村中

高木

大鞍田

榎木

流田

八幡田

池頭

黒稻田

江又木

トナミ運松

鎧免

津幡江

漆越

西村中

宮垣内

沖田

紐分

西津幡江

竹越

鉾の木

0.6

△-0.1

0.9

0.7

0.5

0.4

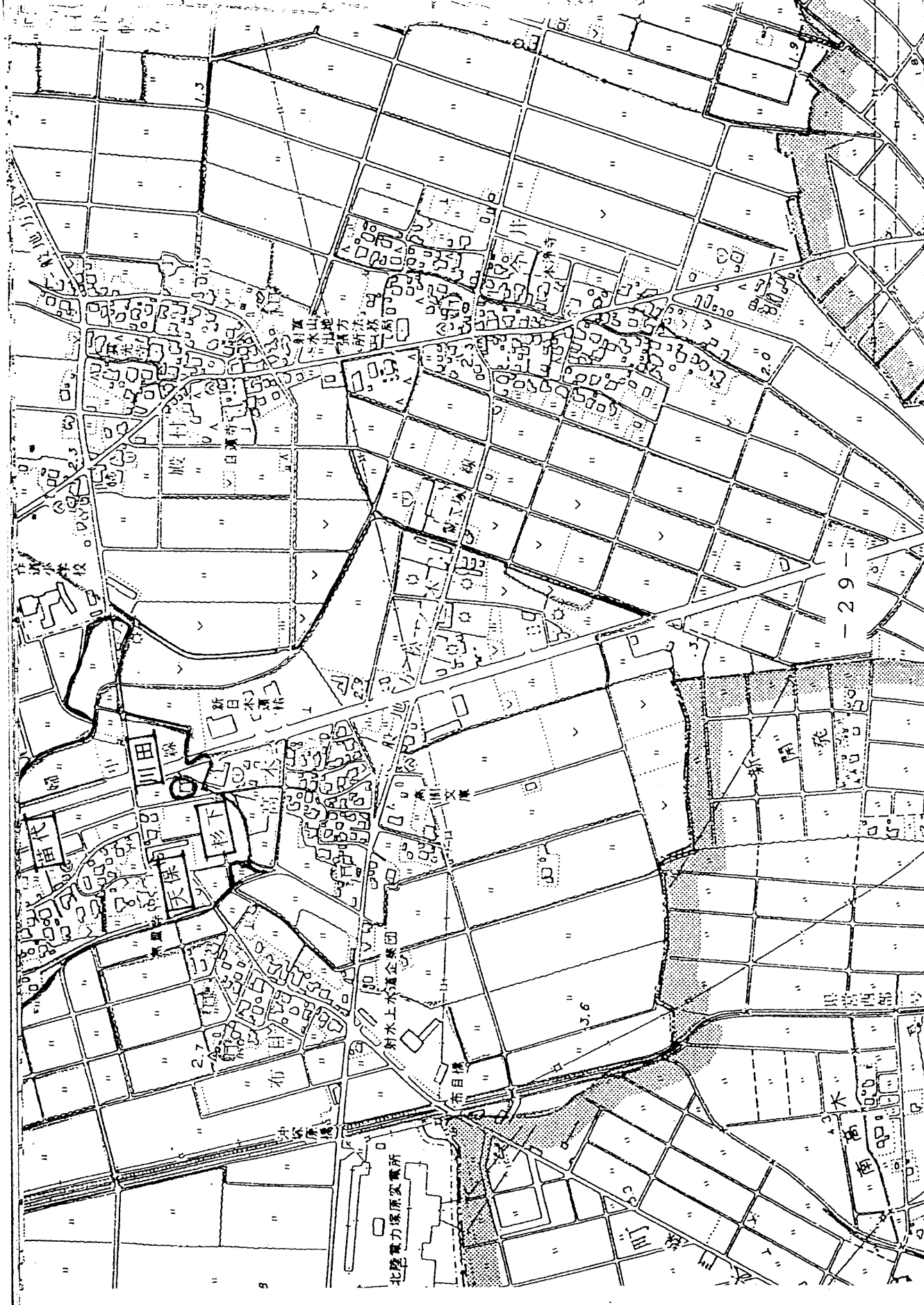
0.3

0.2

1.8

新山地方
山地方
所
山地方
山地方

作
山
山
山



29

北陸電力保原発電所

川田

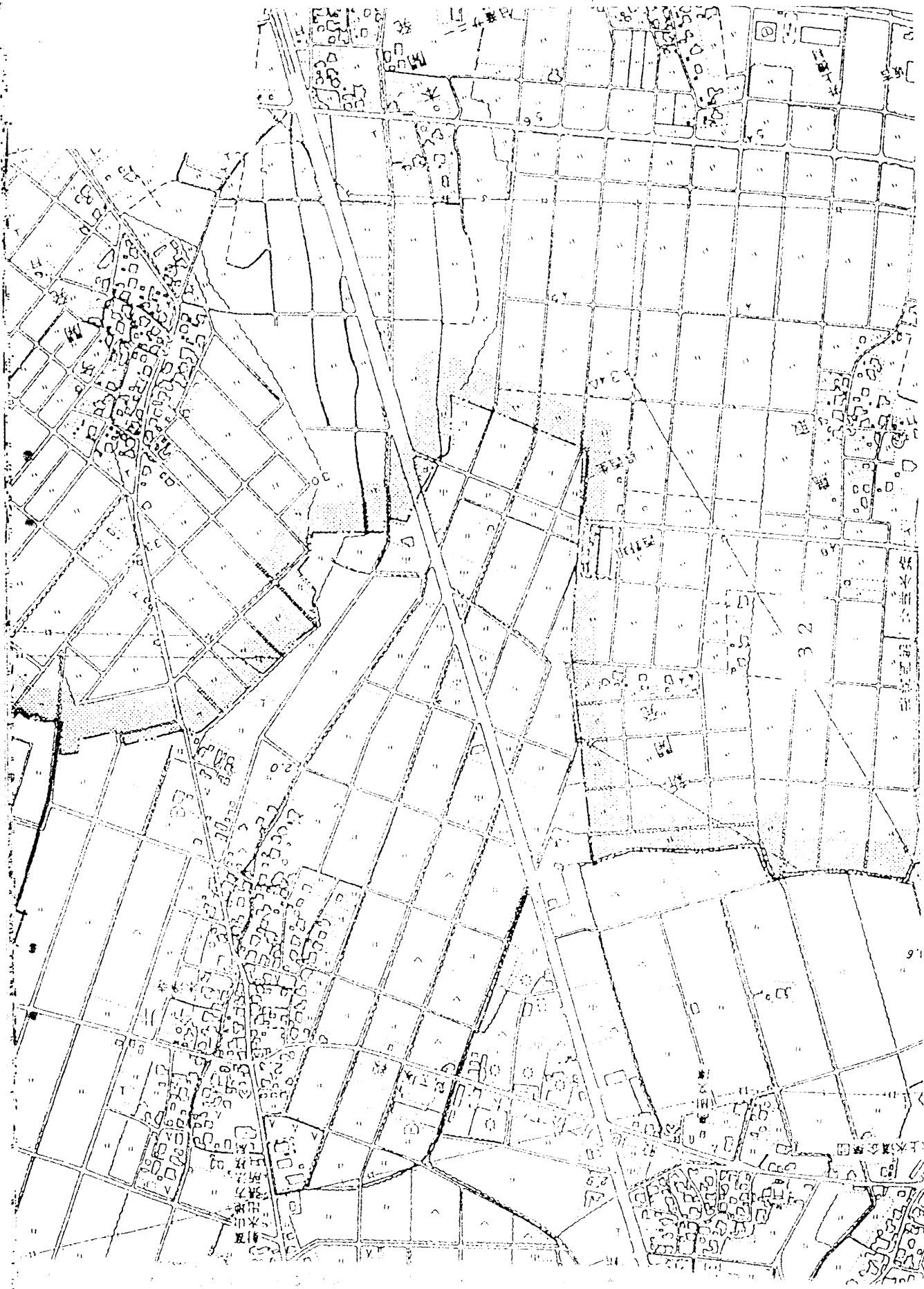
天保

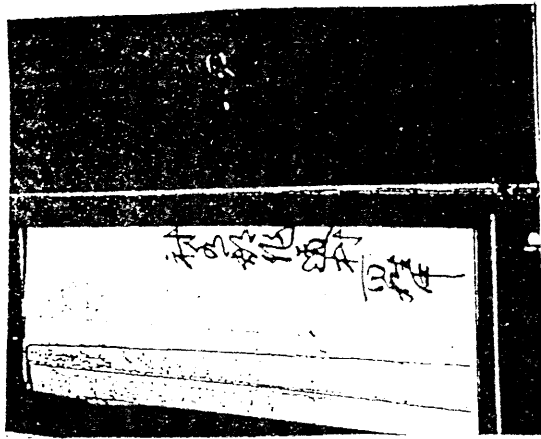
布目橋

新田

東部西部

9





越中射水郡作道村物成之事

惣ケ村草高内貳拾五石明曆貳年百姓方より上ルニ付無檢地極

一、千三百四拾五石

外百五拾六石寛文八年檢地引高

免四ツ三歩 先免四ツ六歩 内三歩万治元年より引

右免付之通新京升を以可納所夫銀定納百石ニ付百四拾目宛
口米石ニ卷斗卷升貳舍宛可出也奉行入並十村肝煎村肝煎誰
々によらず何角申事候共此印面之外一円承引仕間敷也。

同村小物成之事

一、五匁 川 役

一、五匁退転 獵船權役

右ちり小物成出来退転可有之家十村又者取立人吟味いたせ
可相極、敷借米明曆貳年元利共ニ許者也。

寛文十年

九月七日

(御印)

作道村

百姓中

